

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	看護学		
担当者(Instructors)	渡辺 弥生	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)
看護学は、人々の健康問題に関わり、身体的・精神的・社会的、さらに霊的にも安寧な状態を創出するための実践科学である。看護の職務は、健康のあらゆるレベルにある人々に対して、健康増進・疾病予防・健康回復に助力し、その人らしく生きることを支援することである。ここでは、保健医療チームとの連携を視野に看護・介護に共通する援助技術、在宅ケア、セルフケアなどの考え方を理解し、医療・看護の発展過程、基本的な援助技術・健康障害を持つ人への援助について学ぶことを目的とする。なお、質問等の受付については、授業内に指示する。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義、演習、実習、グループワーク等。講義及び実技の実習は看護基礎教育の手法を用い、臨床で行う方法を基本として行う。臨床で出会う症例をもとに家族の立場で考え、ディスカッションを行う。メディア授業2回 オンデマンド

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンスー医療と看護	人の「健康」とは何か? 「医療」と「看護」は、人間が健康生活を送るためになぜ必要なのか考える。	□
第2回	医療・看護の発展過程	戦後の日本における国民衛生の動向を知り、それに伴う医療の発展、日本における看護はどのように捉えられ発展したのか諸外国と比較しながら学ぶ。	□
第3回	看護活動と介護	「看護とは何か」看護独自の機能を知り「介護」との違いを学ぶ。	□
第4回	援助技術 1 (バイタルサインの観察)	バイタルサインとは何かを知り、バイタルサインの観察の視点と方法を学ぶ。また、バイタルサインの測定方法を修得する。	□
第5回	援助技術 1 (バイタルサインの観察)	バイタルサインとは何かを知り、バイタルサインの観察の視点と方法を学ぶ。また、バイタルサインの測定方法を修得する。	□
第6回	援助技術 2 (体位変換・車椅子移動など)	看護の基本を学び、体位変換の必要性とその方法を学ぶ。また車いすの乗降とその方法、車いすでの移動方法について実習を通し実践する。	□
第7回	援助技術 2 (体位変換・車椅子移動など)	体位変換の必要性とその方法を学ぶ。また車いすの乗降とその方法、車いすでの移動方法について演習を通して学ぶ。患者の思いを考える。	□
第8回	援助技術 3 (コミュニケーション・清潔援助・食事介助・排泄など)	看護援助が患者一看護者相互の関係から始まることコミュニケーションの重要性を基本技術を通し学ぶ(動画視聴)。	□
第9回	小児への看護	小児看護の対象とその看護について、育児や保育の視点から小児の特徴や看護の基礎的な知識を通し、小児看護の基本を学ぶ。	□
第10回	成人への看護 健康障害を持つ人への援助(脳血管疾患)	脳血管疾患の急性期から入院中、退院後の看護のポイントを学び、家族の看護の役割について学ぶ。	□
第11回	在宅療養を支える看護	現代の看護は病院では短期間の入院となるため、家族の看護は在宅で展開される。そのため、介護保険制度、訪問看護や施設看護などの選択、家族の役割について考える機会とする。	□
第12回	高齢者への看護	高齢者の看護および加齢からくる、フレイルや認知症がある場合の家族の看護の基本を学ぶ。	□
第13回	看護を支える理論 レポート	学んできた症例や知識を通し看護のかかわりに理論があることを学ぶ。 ケアリングについてレポートする。	□
第14回	社会における看護 自分たちに何が できるか	看護が医療の進歩とともに社会にどう貢献し、さらにどう発展しようとしているかを学び、その活用方法を学ぶ。	□

第15回	まとめ レポート	評価、全体の振り返りを行う。	□
------	----------	----------------	---

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

講義に関連する内容についてテキストの関連ページを読んでくるなど事前に2時間程度学習する。自分の家族や身近な人に病気の人がいるか、高齢者で病気や障害を持つ人がいるか確認し、お見えになる場合はどんな生活をしているか確認し、看護の必要性や方法について学ぶ。講義後2時間の学習を行う。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

出されたレポートは添削、採点後返却する。課題レポートは、全体で共有する機会をもつ。2回程度オンデマンドで課題を行う

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019人間健康DP1	看護と介護の違いを説明することができる。 基本的な看護技術の方法を説明することができる。主な健康障害とその看護の方法を説明できる。在宅における療養生活・リハビリテーションについて説明することができる。 認知症とその患者の看護について説明することができる。健康生活について自身の考えをまとめ文章化できる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019人間健康DP2	1. 家庭看護の必要性について説明できる。 2. 専門職の行う看護の概要を説明できる。 3. 家庭で行う看護技術を実施できる。 4. 頻度の高い疾病の看護の基礎について説明できる。 5. 看護の動向について説明できる。
主体性	◇ 2019人間健康DP3	1. 看護の役割や、看護の活用や社会への貢献について自ら意見を述べることができる。 2. 看護は予防からリハビリテーションまで多岐にわたる健康への取り組みであり、日々の生活に密着していることを学び発信できる。 3. 看護の概念が人間関係やコミュニケーションに生かせることが、発信できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

1. 小テストから知識の確認、また症例について適切な解答が思考過程に沿って記述できるかを問う。2. レポートで技術の知識を確認し評価する。レポートは看護に関する各自の意見が述べられるような課題を課す。3. 参加・貢献度は授業のルールに沿って参加できているか。まじめに課題を提出しているか、質問しているか参加姿勢を評価する。4. 出席は毎回の課題を期日までに提出しているか確認し認める。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	適宜資料配布	
2	健康管理士一般指導員テキスト（6）日本成人病予防協会＊健康管理士希望者	
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	有田清子 系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学2 看護技術1 医学書院	
2	伊藤政子 系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学 看護学概論 医学書院	
3	井出訓 看護学概説 放送大学教材	
4	川嶋みどり 看護の力 岩波新書	

5		
---	--	--